

リニア沿線紀行

川崎市宮前区とリニア神奈川県駅の状況

川崎市宮前区でリニア工事の進展がみられる、との情報が寄せられましたので、現地を訪れました。

1. 準備工事が区切りを迎える？犬蔵非常口

東名川崎インターから主要地方道の尻手黒川道路を町田方面へ向かうと、犬蔵非常口の工事現場に至ります。尻手黒川道路の沿道は事業所が立ち並んでいますが、その裏手は一戸建てや集合住宅が多くを占め、それが周辺の丘陵まで埋め尽くし密集しています。川崎市は神奈川県で横浜市に次ぐ第2の政令指定都市で、人口153.0万人、その中で宮前区は人口23.2万人（本年10月1日現在・川崎市HP）を数えます。犬蔵非常口工事現場は同道路沿いの食品スーパーに隣接し、非常口新設工として前田・三井住友建設・大日本土木・アイサワJVが担当して、現場設置が行われています。フェンスに設置されたボードには「準備工」となっており、一通り整地等が終わって今後立て抗掘削に進み、完成後にはここからシールドマシンが本坑を掘り進むとみられます。



東百合ヶ丘非常口工事現場



犬蔵非常口工事現場

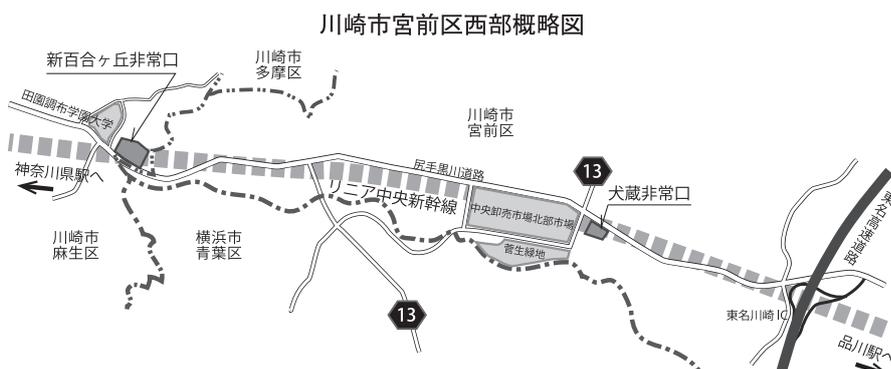


東百合ヶ丘非常口 立て抗掘削工事が進む

2. 東百合ヶ丘非常口は立て抗掘削進む

宮前区ではありませんが、道ひとつ隔てて隣の川崎市麻生区となる場所に東百合ヶ丘非常口の工事現場がありました。小田急新百合ヶ丘駅に近いところです。

大林組・フジタ・大本JVにより、立て抗工事が進められています。掲示板に貼り出された工程表には「内部掘削工 GL（地盤高）0m～-90m」で、10月初旬には「GL-60m」という表示がありました。計画の90m掘り下げに対し既に60m程度まで到達しているようです。



(JR東海事業説明会資料を基にリニア対策課作成)

3. ベッドタウン的色彩の橋本駅周辺

リニア神奈川県駅予定地となる JR・京王電鉄橋本駅へ続いて訪問しました。橋本駅は JR 横浜線（八王子～横浜）、相模線（橋本～茅ヶ崎）と京王相模原線の乗降駅となっています。

橋本駅のある相模原市は前述の川崎市に次ぐ神奈川県第3の政令指定都市で人口71.8万人（本年10月1日現在・相模原市HP）。橋本駅は同市緑区に属しますが、同区の中で駅を中心とした橋本地区は人口72,392人です（同）。2つのJR線と私鉄があることから、訪問前はターミナル駅の都市機能を持った駅前をイメージしておりましたが、鉄道沿線のベッドタウン的色彩が強い駅前という印象を受けました。

JR 橋本駅の乗車人数は、JR 東日本によると、1日当たり定期外24,049人、定期42,087人、合計66,136人、JR 東日本のランキングで70位となっています（2018年度、JR 東日本HP）。その前後の駅は、とみると、66位に代々木駅70,479人/日、71位 新横浜65,768人同などがあります。京王電鉄の駅としての乗車人数は、橋本駅は2018年度は同社で6位となる1日当り98,838人。前後には、5位 下北沢駅114,175人/日、7位 分倍河原駅95,736人同があります。（京王電鉄HP）。

リニア駅設置の現場は、駅前の神奈川県立相原高校あいはらですが、本年4月には新しい場所へ移転して、現在は無人です。学校の構内を見るとあちらこちらに杭が打たれておりますが、工事関係の重機等動きはありません。本年中には工事開始との地元報道もあります。

現在は東京電力パワーグリッド(株)により、相原高校の隣り国道16号線沿いにある東京電力橋本変電所¹⁶に出入りして線路を跨いでいる高圧送電線（右上概略図の++++）を地下埋設する工事が2019年4月から2020年12月にかけて実施されることが示されています。当地域の座光寺変電所と同様な状況と判りました。



橋本駅前の状況、左はリニア駅工事が行われる旧相原高校

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）



正面京王橋本駅入り口、右手地上階JR橋本駅入り口

橋本駅付近概略図



JR 東海事業説明会資料に着色、表記を追加



旧相原高校構内

今回は駆け足での訪問でしたので、事業者や行政からは特段説明を受けておらず、あくまで現地で見聞きしたことに基づきまとめております。ご承知置き下さい。